



苗木を植える植樹祭の参加者—平内町の国有林「社会貢献の森」で

森育て海を守ろう

平内の植樹祭10回目

「陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭」（陸奥湾の水タテを高温から守る植樹祭実行委員会、毎日新聞青森支局など後援）が21日、平内町の国有林「社会貢献の森」で開かれた。今年で10回目を迎え、植樹祭の後には有識者らによる記念セミナーも行われた。

【遠山和彦】

植樹祭は陸奥湾とそこの近くの山林を守るための活動。イタヤカエデ、ミズナラの苗木を山林の斜面に植えた。参加した青森市の青森中央短大1年、葛原朱音さん(18)は「森に植樹することが海の保護にもつながることが参加して実感できた。来年も参加したい」と話した。

参加者らは同日午前、互いに一定の距離をあけて国有林内を約20分歩き、植樹場所に移動。イタヤカエデ、ミズナラの苗木を山林の斜面に植えた。参加した青森市の青森中央短大1年、葛原朱音さん(18)は「森に植樹することが海の保護にもつながることが参加して実感できた。来年も参加したい」と話した。

有識者の記念セミナーも

で、要着した海洋プラスチックごみなどを拾う活動を行った。午後には同町勤労青少年ホームで開かれた記念セミナーでは、陸奥の増産域の重要性に注目し、「森里海連環のちを育む森への思考」を提唱した田中克



講演する田中克・京都大名誉教授と元NHKキャスターでNPO法人「ガイア・イニシアティブ」代表の野中ともよ氏が講演。それぞれ「いのちのふるぎと海と生きる」のちを育む森への思考」を提唱した田中克

MAINICHI

毎日新聞

6月22日(月)

2020年(令和2年)